

校名：茨城大学教育学部附属幼稚園

所在地：〒310-0011

電話番号：029-224-3708

茨城県水戸市三の丸2-6-8

記載日：平成28年5月25日

記載者：近藤祥子

記載者役職：副園長

貴校の校風、おおまかな特色について：

本幼稚園は、教員養成を目的とする茨城大学教育学部の附属幼稚園として、大学の研究と学生の教育実地研究の場として、昭和42年6月に創設された。大学と共同又は自主的に幼児の教育研究を行い、それを実証し、その結果をもって地域の幼児教育の向上に寄与することを使命とする。

本園は豊かな人間理解を根底とする社会性の芽生えを重視し、基本的な生活習慣の育成を図るとともに、自主性・創造性を養い、明るく健全な心身の発達を助長し、望ましい人格の育成を目指している。

<本園の幼児像>

自分の気持ちを素直に表現する子ども

自分の思いを実現していく子ども

いろいろなことに興味や関心をもち挑んでいく子ども

相手の気持ちが分かる子ども

みんなの中の自分を意識し、調和していこうとする子ども



貴校の卒業生の活躍状況について

幼稚園のため、その後の活躍は進学先の学校に任されている。卒園児の追跡調査は行っていない。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

各附属学校園での退職者の名簿管理を共有し、2年ごとの「大附属会」でOBを交えた情報交換会を実施している。その都度、勤務校、近況報告、叙勲の顕彰などを行っている。大附属会事務局は、ローテーションで各校が担っている。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

○全国国立大学附属学校連盟（全附連）幼稚園部会が文部科学省より委託を受け、お茶の水女子大学附属幼稚園が中心となって実施した研究に共同研究機関として参加した。その成果は『幼児期の

非認知的な能力の発達をとらえる研究『感性・表現の視点から』の報告書として発表した。また、全国の国立大学附属幼稚園における研究の現状を紹介するため、毎年テーマを決め、今後の幼児教育のあり方への提案を行っている。27年度は「遊びや生活を通して思考力を育む」というテーマのもと6園の事例研究を掲載したリーフレットを作成した。

○大学教員 5 名が所属する幼児教育部会を設置し、保育研究に協力する体制を整備している。研究保育では、幼児教育部会の大学教員が助言者として参加し保育カンファレンスを年間 5 回実施し、さらに大学教員が、公開研究会での講演なども行っている。これらの研究をもとに、保育の充実を図り、公開研究会での地域還元を生かしている。また、これらの大学教員の協力を得た、保育の意義を啓発するための育児書『子どもが伸びる 子育ての方法—楽しく遊んで、子どもを伸ばす』を今年度発行する予定となっている。

○子育て講座の企画立案に幼児教育部会が協力して年間 3 回開催している。大学教員が講師を務め、各回とも約 100 名の保護者の参加を得ている。

○大学の調査研究・授業実践への協力と地域への還元

・「鬼遊び（おにごっこ）」を集中して実施し、運動と体力（持久走、敏捷性、走力）の関連について本学（教育学部・大学院教育学研究科）教員との連携研究を実施している。その成果物は『みんなで遊ぼう鬼遊び！』のパンフレットとして県内の幼稚園や保育所へ配布された。

平成27年度文科省幼児期の運動に関する指導参考資料作成手帳



茨城大学教育学部附属幼稚園

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

地域の幼児教育において研究・保育の中心的な役割を果たしている。

具体的な事例として、公益社団法人全国幼児教育研究協会の茨城支部の事務局を担っている他、毎年、茨城県教育委員会の幼児教育に関わる指導主事研修や新採教員研修会の会場として、保育公開、講話を担当している。公開保育研究会は、毎年 200 名を越える参加者を得て、盛況に行われており、地域の幼児教育関係者の期待が現れている。「子どもと共に遊びをつくる」(25 年度～27 年度) の 3 年次「自然との触れ合いを通して」をテーマに研究実践を行い、公開研究会を開催したところ平成 27 年度は、約 200 名の参加者を得て盛況であった。

茨城県教育委員会義務教育課主催の幼児教育指導主事研修に協力するとともに、地域と連携を図る取組として、保育後の時間に園舎を開放し、就園前の幼児とその保護者を対象にした公開保育「コミュニティ広場」を実施している。（平成27年度は7回実施）さらに、平成27年度は、在園児の保護者を対象とした「子育て講座」（茨城大学教育学部教員による講話）を、未就園児対象の「コミュニティ広場」（第7回）の参加者も受講可能として実施した。

また、地域の教育力向上のため、茨城県立水戸第三高等学校及び水戸市立第二中学校の家庭科の保育体験実習と連携を図り、実習に協力している。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

少子化の時代だからこそ幼児教育の重要性は拡大している。現在の「こども園化」の流れは、そのことを省庁の壁を越えて政府が認識していることの表れと考えられる。しかし、保育の現場では、今でも地域によって制度が微妙に異なり、手探りでの対応を余儀なくされているように思われる。幼児教育の始まりを幼稚園が担っていたことは歴史的事実であり、附属幼稚園には幼児教育の原点を確保しながら発展・展開させていく責務があると思う。育児書の発刊などを通して、効率を求める幼児教育とは異なる視点を広く社会に訴えていかなければならない。

以下、このページいっぱいまで、ご自由にお使いください。